

マンモグラフィ+乳房超音波同時併用 乳がん検診について



同時併用検診には利点だけでなく欠点・問題点もあります

マンモグラフィ検診に乳房の超音波検査を同時併用検診した場合

利点

- マンモグラフィ単独で発見されにくいタイプの乳がんが発見されやすくなる

欠点・問題点

- ごくわずかな乳房の変化をとらえすぎる結果、精密検査や不要な治療が増加する可能性がある
- マンモグラフィ単独検診と比較して、マンモグラフィ+乳房超音波併用検診が優れている（乳がんによる死亡が減少する）ことを示す証拠はまだ確認されていない

40歳以上の女性に対して行う、マンモグラフィによる乳がん検診は有効性が証明された唯一の検診方法です

標準的な乳がん検診では、問診とマンモグラフィを行います。かつて行われた視触診のみの乳がん検診は有効性が否定されたため、現在は行いません。

しかし乳房内に脂肪が少ない「高濃度乳房」というタイプの方はマンモグラフィで乳がんが見つかりにくいといわれます（高濃度乳房は個性であり病気ではありません）。



乳房超音波検査は高濃度乳房の検診に有用と考えられ、マンモグラフィとの同時併用に関して大規模な臨床研究が行われました。

その結果

- ① マンモグラフィと乳房超音波を同時に併用するとマンモグラフィ単独より乳がん発見の可能性が高くなること（＝感度の上昇）が示されました
- ② しかし、ごくわずかな変化もとらえすぎるので乳房に針を刺して行う精密検査が増加する（＝特異度の低下）や過剰診療が増加するという欠点も指摘され
- ③ 最終目標である乳がん死亡率低下につながるかどうかはまだ証明されていません。このため市区町村が行う公的な乳がん検診として、マンモグラフィ+乳房超音波同時併用検診は推奨されていません（詳細は文末の日本乳癌学会の乳がん診療ガイドラインをご参照ください）。

ドック検診など自費検診でご希望によってマンモグラフィと乳房超音波の併用検診を受診することは可能です。

併用検診をご希望される方は、利点と欠点・問題点があることを今一度十分ご理解ください。

参考) 日本乳癌学会乳がん診療ガイドライン

●高濃度乳房問題について

<http://jbcs.gr.jp/guidline/2018/index/kenshingazo/1s3/>

●Hand-held（用手的）超音波検査は高濃度乳房に対する対策型乳がんマンモグラフィ検診の補助的乳がん検診モダリティとして推奨されるか？

<http://jbcs.gr.jp/guidline/2018/index/kenshingazo/cq1/>